

令和2年度北丹沢神ノ川流域の山開きと周辺整備活動協力依頼のご案内

昨年秋の台風19号は神ノ川に多大な被害を発生させました。特に各河川の出合では激流と大量土砂が発生し、地形が激変する状況でした。いつもご協力いただいている神ノ川林道沿いのこのま沢キャンプ場・神ノ川キャンプ場・裏丹沢溪流釣り場などの多くのキャンプ場も、今年5月の連休に一部でも再開できるよう復旧活動を急ピッチで行っておられます。当神ノ川ヒュッテも一部被害がありましたが、ヘリポートを中心にキャンプ場として復旧を検討しており、是非みなさまのお力をお借りしたいと存じます。ボランティア活動のみなさまには日帰りで飲み物・弁当持参で当日の保険加入が参加条件です。保険については日山協のスポーツ保険の加入を受け付けております。お申し付け下さい。

記

1. 開催日 令和2年4月12日(日)
2. 集合 午前10時(自動車で来所可)
3. 会場地 折花神社境内 山開きの記念行事を開催
4. 山開き終了後 徒歩にて神ノ川ヒュッテへ移動し復旧作業
以上



昨年の山開きの様子

神ノ川街道を往く 昭和30年神奈川国体で丹沢山塊が再生された

神ノ川ヒュッテ主人 杉本 憲昭

古くは神ノ川街道への道筋は中央線上野原駅を下車し、桂川を渡り秋山村より安寺沢を経由し巖道峠を越え、道志村月夜野へ下り、そして鎌倉みちより神ノ川口を経て神ノ川街道へ達し、更には広河原より神ノ川仏谷そして蛭ヶ岳へと登山して2日かかりでした。戦前は大規模な伐採が大倉組で行われ神ノ川より青根へと搬出されました。そして時代は戦争へ、飛行機のプロペラの材料としてブナの木が犬越路・広河原地蔵尾根より切り出され、また松の木は切り出され青根の橋津原で松生油として精油され、飛行機の油として使用されました。山からの大量のブナ、松、モミの木などは太いワイヤー鉄柵機械で運ばれ、神ノ川・広河原地蔵尾根に大規模な貯木基地を備えました。現在も地蔵尾根には太いワイヤーで巻かれたモミの木がそのままの姿で立っており、広河原には大倉組の七軒小屋が残され、神ノ川の日陰沢は犬越路方面より松・モミ・ブナがやはり鉄柵で搬出されていました。鉄柵は現在も神ノ川ヒュッテに埋められ一部掘り出されています。

ベトナム戦争では1950年に蛭ヶ岳山頂の東沢にアメリカの軍機が墜落し、アメリカ軍、地元住民、警察らにより神ノ川から逆行し仏谷より捜索がなされました。これはアメリカ軍機密事項で平成17年(2005年)アメリカの公文書館に於いて50年ぶりに初めて公開され、公に知られることとなりました。当時アメリカ軍機の操縦士であったジェームズさんの息子であるデニス・フェネシー氏がこれをアメリカの公文書館より発見し、立教大学の町田先生よりご依頼され杉本がデニス氏を案内し、山頂に墓碑を残しました。

今現在、蛭ヶ岳より焼山まで丹沢主脈道とされていますが、昭和30年の神奈川国体により神ノ川からの登山が出来るようになったのです。神ノ川への入山口は中央線藤野駅からで、この駅は昭和18年に地元小淵村の村民が所有する陣馬山の村民地を神奈川県へ売却し創られました。やがて時代は戦争を経て、藤野より青根への道路も藤野・山北線として通行され、昭和20年代まで「藤野～日連」間は交通手段が渡船で行われており、対岸の牧野地区の住民は藤野へ下宿し通勤・通学していました。バスはやがて日連橋の開通により菅井まで運行が開始され、山岳会員も神ノ川ヒュッテへの入山は菅井集落で下車し、今の高崎建設の脇を下り神ノ川本流から青根へと道は続いていました。

時代は更に進み、昭和40年代には菅井～青根間は自衛隊により道路が開通されました。その後中央線から神ノ川への入山ルートは藤野駅下車が主流となり、一方横浜線橋本駅からは、三ヶ木バス停から更に乗り継ぎ、青根東野行きバスで焼山から蛭ヶ岳への主脈を辿るコースが蛭ヶ岳へのルートとなりました。この交通網の整備がやがて北丹沢の幕開けとなり現在に至っています。

平成12年7月1日 奥野幸道氏より杉本憲昭書簡

「角田忠治を偲ぶ」

偲ぶ云、角田忠治さんを入れいただいて万歳、私が長者舎の角田さんの処に泊めてもらったのは、昭和16年11月2日です。丹沢たよりも、足柄の文化にも当時の思い出を書いています。私達が行った時には、忠治さんは満州に行かれた後でお母さんと嫁さんが二人でした。忠治さんは15年5月に肺炎にて満州で亡くられています。青根方面の満州へ開拓者として渡った人々の調査記録がたしか鳥屋だと思えますが報告書が出されて購入したのですが不明です。それには詳しく書かれて居ります。

私の先輩で横浜高工山岳部のOBで戦前に忠治さんと親しくてハイキング116号に神ノ川ノートとして詳しく発表されております。先日私の家に遊びに来られて出席したいと言って居られました。記事の中に忠治さんと写した写真が入っているのですが、姿がわかる程度です。杉野さんすべての資料が戦災で灰になってしまって何もないとのことですが、忠治さんの思い出など聞かれたと思います。嫁さんが青根に居り杉野さんに話したら二回ほど訪問したとのことでした。平成4年4月23日にやまなみ五湖の調査で東野へいったきりです。(注 角田忠治の住所は現在の山の神のところで地名が長者舎となっている。)

神ノ川林道工事に思うこと

神ノ川よりトンネルで西丹沢へ

神ノ川ヒュッテ主人 杉本憲昭

旧藤野町の頃に、青根より神ノ川へ西丹沢を抜ける道は藤野山北線という名称であった。青根から神ノ川へ通ずる林道は大雨毎に土砂災害が起こり、誰言うともなく「金食い林道」と呼ばれていた。神奈川県は財政負担は多大であるだろう。当時に神ノ川より犬越路の下を通り西丹沢へ貫くトンネルがあったなら、県道の通行も地域の方や災害時の補助的役割は負えたに違いない。

今からでも遅くないだろう。技術の進歩した現代社会ならば、少し山をかじって谷側に道を通す手法はもはや現在の災害対策には成り得ないと思う。

青根神ノ川より犬越路下を貫く林道トンネルの夢を今年の初夢としたい。